

◆大会企画委員会の活動報告

大会企画委員長 黒須里美
大会運営委員長 坂井博通

日本人口学会は、第72回大会を2020年6月13日(土)、6月14日(日)の2日間、埼玉県立大学において開催いたします。会員の皆様はもちろん、人口にご関心のある研究者や学生の非会員の皆様にも積極的にご参加いただければ幸いです。大会では、下記の通りシンポジウム、2つの企画セッション、1つのテーマセッションを設定しています。企画セッションにおける報告は組織者により編成されますが、テーマセッションでは報告が公募されますので、自由論題と同様に積極的にご応募ください。会員総会、懇親会は6月13日(土)です。また、大会前日の6月12日(金)には特別セッションが開催されます。

セッションタイプ	タイトル	組織者	使用言語	備考
シンポジウム	少子化時代における子どもの スナップショット～2018年「子どもの 生活に関する調査」を中心に～	坂井博通 (埼玉県立大学)	Japanese	公開 (6/13)
企画セッション1	100周年を迎えた国勢調査 － 歴史と展望	川崎 茂 (日本大学)	Japanese	(6/13)
企画セッション2	生物人口学理論の現況報告 －理論研究からデータ解析まで－	高田 壮則 (北海道大学)	Japanese	
テーマセッション	小地域データを用いた 人口分析とその応用	中川雅貴 (社人研)	Japanese	公募
特別セッション	第7回「地方行政のための GISチュートリアルセミナー」	井上 孝 (青山学院大学)	Japanese	(6/12)
自由論題 セッション	--	--	Japanese/English	公募

◆総務委員会の活動報告

総務委員長 石井 太

□ 2018年度第3回理事会概要

(令和元年5月12日(日)、国立社会保障・人口問題研究所)

1. 議題1:会員の異動について

石井総務委員長より最新の会員数について報告があった。

2. 議題2:2018年度決算案、2019年度予算案について

石井総務委員長より2018年度決算案について説明があった後、新田目監事より監査内容について報告、その後2019年度予算案について説明があり、会員総会への提案につき了承された。

3. 議題3:理事の異動について

石井総務委員長より、中部地域部会長を水落正明会員から松田茂樹会員へと交代する旨、動議があり、了承された。

4. 議題4:第71回大会について

黒須大会企画委員長、及び村山大会運営委員長より大会の準備状況について報告があった。

5. 議題5:日本人口学会大会規定の見直しについて

黒須大会企画委員長より、大会での報告に当たっては未発表のものに限る旨、大会報告規定を改正する旨、提案がありました。

6. 議題6:トラベルグラントについて

和田研究企画委員長より今大会におけるトラベルグラントの受賞候補者につき説明があり、了承された。

7. 議題7:育志賞候補者の推薦について

和田研究企画委員長より今年度は当該賞に対する応募はなかったため、人口学会からの推薦はなしとする旨、説明がありました。

8. 議題8:その他

人口学事典編集委員会、及び英書シリーズ刊行委員会の活動について原委員長より報告があった。また、国際交流委員会、及びGEAHSS担当の永瀬理事から提出された配布資料について、津谷会長より説明があった。また、稲葉副会長より2020年の大会を埼玉県立大学(6/13,14)で開催する旨、報告があった。

□ 日本人口学会第71回大会会員総会概要

(令和元年6月1日(土)、香川大学)

1. 議題1:会員の異動について

石井総務委員長より最新の会員数について報告があった。

2. 議題2:委員会活動報告

各委員長より過去1年間の活動、及び今後の活動方針について報告が行われ、了承された。

3. 議題3:2018年度決算、19年度予算について

石井総務委員長より資料に基づいて、2018年度決算と2019年度予算の説明、及び新田目監事より監査結果について報告があり、了承された。

4. 議題4:理事の異動について

石井総務委員長より、中部地域部会長を水落正明会員から松田茂樹会員へと交代する旨、提案があり、了承された。

5. 議題5:その他

稲葉副会長より来年度大会を6/13,14に埼玉県立大学、坂井博通会員を大会運営委員長として行う旨、報告があった。(※2019年度第1回理事会は大会に併せて開催)

□ 2019年度第2回理事会概要

(令和元年11月17日(日)、国立社会保障・人口問題研究所)

1. 議題1 会員の異動について

石井総務委員長より最新の会員数について報告があった。

2. 議題2 第72回大会について

黒須大会企画委員長、及び坂井大会運営委員長より資料に沿って説明があり、了承された。その後、大会報告申し込み、及び出席登録のタイミングについて議論が行われ、報告のアクセプトを通知する際、併せて出席登録の期限のリマインド、及びそれまでに登録なき場合は報告がとりやめになる旨、併せて知らせる旨、了承された。

3. 議題3:理事の選挙日程について

石井総務委員長より資料に沿って説明があり、選挙管理委員の構成及びその後の選挙日程等について了承された。

4. その他

2021年以降の大会開催地について稲葉副会長より提案が行われた他、金子委員長より学会賞の選考について報告があった。

企画通過:①仙田幸子(労働家族)、②加藤久和(経済)、③大泉嶺・稲葉寿(数理)、④是川夕(移民)が4タイトルあります。

2. ご提案とアドバイス

1)編集委員の先生へのお願い

今のところ順調に推移しておりますが、出生・家族関係が多く、経済、理論などがパラパラという感じで、死亡や移動(ようやく移民1冊企画段階)、地域人口、疫学関係、歴史人口学など、より広い分野からの出版が期待されます。

また、これまでの出版企画は編集委員長の一本釣りが大部分なので、そろそろ限界に達しつつあります。そこで、編集委員の皆さんにも、毎年、1人1つ程度をめぐりに出版企画を出していただくようご提案しました。

具体的には、毎年、1つ程度をめぐりに出版企画を出していただければと考えています。ご自分の本の企画書でも、ご自分のところに推薦依頼で回って来た企画書でも構いませんが、できれば、ご自分の専門領域の方に執筆を奨めて頂き出版企画を出してもらおうと、学会活動の活性化にも貢献していただけるのではないかと考えました。

Springerとの契約では年間8本の企画書(まだ一度も達成しておりませんが)とになってますが、編集委員が14名いますので、半分ほどの人が出せば契約通りになります。なお、これは編集委員としてのノルマではなく、単なる努力目標ですので、うまく行かなくても気にする必要はありません。

2)誰でも投稿可能です。執筆者の条件

人口学会HPにある「日本の人口学研究」英書シリーズ創刊のお知らせ及び執筆者募集(日本語版|英語版[MS Word docx形式])にあるCall-for-Proposals-J(1)に書いてある投稿資格は、「投稿は人口学会会員に限らず、国内・国外を問わず、日本における人口研究に資するすべての研究者に認められますが、非会員の方は出版許可を得た後、すみやかに入会手続きをされるようお願い致します。」となっておりますので、基本的に誰でもOKです。しかしながら、英語での執筆は避けられないので、英語論文など、何らかの形で英語での執筆経験のある人が対象になります(日本語原稿を翻訳して英文化することは可能ですが、かなりの費用が掛かります。もともと、編著の一部であれば編集者が翻訳して英文化するという手はあります。また、時間を掛けて、まずは英語論文の執筆から始め、数本をまとめて本にするという手もあります。若い研究者の人にはお勧めです)。

ちなみに「出版許可後、すみやかに入会手続き」は義務ではないので、この条件を強調する必要はありませんが、海外の研究者や他学会の人をリクルートするには便利な手だと思っております。

3)企画書の勧め

まず、一度、自分で英文企画書を出して、執筆、出版されることをお勧めします。やってみればわかりますが、企画書まではスムーズ(1カ月)、執筆開始するまでの間が心理的に重く(なかなか手がかかず止まってしまうケースが多い)、執筆開始後はまたスムーズ(皆さん1年弱で終わります)で、入稿前の校正段階が大変で(ネイティブチェックや編集委員からのアドバイスなどがあり)、入稿後(シュプリンガーの編集部)はまたスムーズで、1か月ほどで出版となります。

つまり、書いてみれば何ということもなくなり、また書こうという気になります(シリーズとは別に単行本を出すことも可能です)。

全部を一人で書くのは大変ですし、時間も食うので、编者また執筆者の一人として、編著または共著として企画することも可能です。この方法は企画が簡単でスムーズですが、執筆、校正段階で時間を食う可能性があります(しかし、出版時期の遅れに対するペナルティはありませんので、早めに企画を出して、ゆっくり出版に持ち込むと良いかも知れません)。

4)企画書の審査とレコメンデーション

企画書の審査とレコメンデーションの執筆は、このシリーズの実態がよくわかるので、今後は可能な限り、多くの編集委員の先生にお願いするつもりです。

◆英書シリーズ刊行特別編集委員会の活動報告

英書シリーズ刊行特別編集委員長 原俊彦

英書シリーズ:Springer Briefs in Population Studies日本人人口学会編:「日本の人口学研究」Population Studies of Japan (<https://www.springer.com/series/13101>)の刊行にご協力頂きありがとうございます。本委員会は、この英書シリーズの刊行のために組織されたもので、定期的に集まって審議するものではありませんが、11月17日(日)の人口学会理事会で11月12日現在の状況を報告しました。ご覧になり、何かご意見・ご質問などがありましたら、遠慮なく原までご連絡下さい。皆さまからの企画提案をお待ちしております。

報告・提案事項など

1. 出版状況出版済み点数は、前回報告(2019年5月7日)の9タイトルから変更ありませんが、筒井淳也(労働・家族)制作中、吉田穂波(災害)レビュー中、松田茂樹1(労働家族)、原俊彦(人口・政策)原稿校正中、林玲子(人口・政策)執筆中、松田茂樹2(労働家族)執筆中、なので、年末から2020年中には6タイトルが出版される見通しです。また、11月12日現在、

レコメンデーションは英文100Words以内(1Wordでもオーバーするとダメ)です。出版企画書に本人が英文で企画のポイントなどを書いていきますので、読者にアピールするように、これを短く要約すれば簡単に書けます。むしろ、レコメンデーションを書くよりは内容構成などをしっかり見てあげて、執筆した後で、構造的な問題が起きないか(筋が通らない、論理的な飛躍がある、ポイントを絞るか、逆に足りない章を加えた方が良いとか)、編集者の視点で企画書をチェックしたいた方が大事です。

5)入稿前のチェック

ネイティブチェックが終わった段階で、Springerの編集部に入稿する前に、レコメンデーションをした先生に、入稿前のチェックをお願いしています。目次から図表まですべての原稿となりますので、分量も多く、全部に目を通すことは必要とされていません(この本は自己責任原則です)。この段階でのチェックポイントとしては、

- ①目次などを見ながら、企画書通りになっているか(構成が変わっている場合には、その妥当性)
- ②全体の導入部、結論の部分などを読んで、英文の本として読めるものになっているか?
- ③図表の処理に間違いがないか(作図の仕方や表題・出典など)
- ④明らかな間違いがないか。

審査の先生方は、以上のような点で、問題あれば、その箇所などを指示して、同じようなところを自分で見つけてリライトするように著者にリクエストします。

★Springerの編集部は、テキストや図表の編集はしてくれますが、内容的なチェックはできません。編集委員がゴーサインを出すと機械的に作業が進んでしまい、内容的にはそのまま本になって出てしまうので気を付けて下さい(一旦入稿すると、著者本人の希望があっても大きく原稿に手を入れることはできません)。

◆日本人口学会関西地域部会・2019年度研究会の御案内

日本人口学会関西地域部会
川口 洋・中澤 港・平井晶子

1. 活動計画(2018-2020)

今期の研究課題として、(1)人口学からみた過去・現在・未来、(2)隣接分野との対話を掲げたい。

人口学の役割は、過去・現在の人口変動を総合的にとらえ、人口変動が生じた要因を時間軸と空間軸のなかに位置づけ、将来予測につなげることとみられる。そのためには、人口変動の要因となる自然環境、社会環境に注目して、人口学に隣接する専門分野との対話が不可欠とみられる。

上記の研究課題を達成するために、毎年1回程度の研究会を企画運営する。研究会の会告や報告要旨などを日本人口学会HPや「人口学研究」などに掲載して広報に努める。研究会では、会員・非会員を問わず、幅広い年齢層の研究者から御報告いただき、十分な討論時間を取って議論を深める。参加者が30人を超え、会員の増加に繋がるよう、人口学の活性化に努めたい。

2. 日時:2020年3月14日(土)10:00~17:30

3. 会場:神戸大学文学部B135教室

4. 会場校の担当者:平井晶子

5. テーマ:近代移行期の人口移動 ー人口移動からみた過去・現在ー

6. 共催:科研費「300年から読み解く日本の家族/人口論」の構築へむけた実証研究(2017-2019、代表:平井晶子)、麗澤大学・歴史人口学セミナー

7. 趣旨:研究課題(1)に掲げた課題の理解を深めるために、18-19世紀の国内人口移動に関する研究成果を報告していただき、人口移動研究の専門家を討論者として御登壇いただくことによって、過去から現在を見通す人口移動研究の視点と研究方法について討論したい。

8. プログラム

- 開会の挨拶・趣旨説明 川口 洋(帝塚山大学)
- 第1報告, 報告30分, 討論20分, 司会:村越一哲(駿河台大学)幕末の大都市周辺地域における人口移動の分析ー丹波国桑田郡馬路村を事例としてー (長島雄毅・愛知工業大学)
- 第2報告, 司会:村越一哲(駿河台大学) 幕末期の京都における人口移動(Mary Louise Nagata, Francis Marion University)
- 昼休み 12:00~13:00
- 第3報告, 司会:中澤 港(神戸大学) 19世紀の越後国からの出稼ぎ-越後漁村旧角田浜村の事例分析-(張婷婷・東北大学)
- 第4報告, 司会:中澤 港(神戸大学) 近世東北における人口移動の空間的な広がり -二本松藩町村の比較を通して- (長岡 篤・麗澤大学)
- 第5報告, 司会:平井晶子(神戸大学) 近代期の都市村落間人口移動をとらえる視点(鈴木 允・横浜国立大学)

総合討論:コメント各10分, 討論60分, 司会:平井晶子(神戸大学)
指定討論者:高橋真一(新潟産業大学), 丸山洋平(札幌市立大学)

閉会の挨拶 川口 洋(帝塚山大学)
以上

◆役員名簿(2019年6月-2020年5月)

- 役職(担当)
- 会長 津谷典子 慶應義塾大学
- 副会長(大会担当) 稲葉 寿 東京大学
- 理事(総務委員会) 石井 太 慶應義塾大学
- 理事(大会企画委員会) 井上 孝 青山学院大学
- 理事(学会賞選考委員会) 金子隆一 明治大学
- 理事(関西地域部会長) 川口 洋 帝塚山大学
- 理事(九州地域部会長) 草野洋介 西九州大学
- 理事(大会企画委員会) 黒須里美 麗澤大学
- 理事(編集委員会) 小池司朗 国立社会保障・人口問題研究所
- 理事(国際交流委員会) 小島 宏 早稲田大学
- 理事(広報委員会) 中澤 港 神戸大学
- 理事(国際交流委員会) 永瀬伸子 お茶の水女子大学
- 理事(東日本地域部会長) 萩原 潤 宮城大学
- 理事(編集委員会) 林 玲子 国立社会保障・人口問題研究所
- 理事(人口学事典刊行特別委員会・英書シリーズ刊行特別編集委員会) 原 俊彦 札幌市立大学
- 理事(中部地域部会長) 松田茂樹 中京大学
- 理事(研究企画委員会) 和田光平 中央大学
- 監事 新田目夏実 拓殖大学
- 監事 山内昌和 早稲田大学

<理事/監事:五十音順・敬称略>

日本人口学会 会報 第77号 2020年1月発行 編集発行責任: 日本人口学会2018~2019 年度総務委員会

日本人口学会事務局連絡先:

〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13 小石川アーバン4F一般社団法人学会支援機構内

TEL: 03-5981-6011 FAX: 03-5981-6012

E-mail: paoj@asas-mail.jp http://www.paoj.org/